

令和7年度 第1回 食育推進検討部会 議事録	
日 時	令和7年7月16日（水）18時30分から20時30分まで
開 催 場 所	横浜市役所18階みなと6・7会議室
出 席 者	健康横浜21食育推進検討部会委員11人（別添資料1）
欠 席 者	健康横浜21食育推進検討部会委員4人
開 催 形 態	公開（傍聴者無し）
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 委員紹介及び部会長選出</p> <p>4 議事</p> <p>　　横浜市食育推進計画（第3期）の目標に関する取組について</p> <p>5 報告</p> <p>　　ハマの元気ごはん提供店登録制度の取組について</p> <p>6 その他</p> <p>　　今後のスケジュールについて</p>
1 開 会	
2 あいさつ	
3 委員紹介 ・部会長選出	<p>（事務局）</p> <p>新たな任期での初回の会議のため、食育推進検討部会設置要綱に基づき、互選にて部会長の選出を行う。</p> <p>（岩本委員）</p> <p>金子委員にお願いしたい。</p> <p>（一同）</p> <p>異議なし。</p> <p>（金子委員）</p> <p>了承</p> <p>（金子部会長）</p> <p>御推薦・御支持いただき、引き続き、部会長を務めさせていただく。よろしくお願いしたい。</p> <p>計画の策定から、取組の実践の段階へと移り、今年度は今回1回の開催となる。横浜市食育推進計画（第3期）の目標に関する、行政及び各団体それぞれの取組の実践について共有し、より実践の成果を高めるために、相互に協力できることがあれば、その内容についても議論を深めていきたい。皆様の御協力をお願いしたい。</p>
4 議 事	<p>【議事】横浜市食育推進計画（第3期）の目標に関する取組について (資料3・資料4)</p> <p>（事務局）</p> <p>資料説明（資料3・資料4）</p>

	<p>(金子部会長)</p> <p>資料4に基づき、各団体の取組について御発言をいただきたい。</p> <p>(岩本委員)</p> <p>公益財団法人かながわ健康財団主催の「健康チャレンジフェアかながわ」に毎年ブース出展しており、ベジチェック測定とアドバイスを実施している。歯科医師会との連携も継続して実施している。「市民活動フェア」など大きなイベントでは毎年恒例で、声がかかり出展している。</p> <p>市民全体に対しては、「こどもができる簡単料理レシピ集」を使った料理教室や、子育て広場での離乳食教室を実施している。</p> <p>関連団体として、横浜市の事業に協力しており、「フレイル予防栄養相談」を実施した。令和7年度は新たに、高齢者向け料理教室の開催や女性の健康づくりを視野に入れた取組について、拡充して実施していく考えがある。</p> <p>防災意識の高まりを受け、災害備蓄食品やパッククッキングの紹介も実施している。</p> <p>(金子部会長)</p> <p>ますます多彩に、幅広く展開していただいている様子が拝見できた。行政と連絡を取り合って実施する取組もあるのか。</p> <p>(岩本委員)</p> <p>その通り。</p> <p>(君塚委員)</p> <p>ここ数年、食育の取組内容に変化はないが、継続して実施する中で見えてきたこともあり、見直の必要性も感じている。</p> <p>出前授業については、以前は依頼が多かったが、コロナ禍以降は少なくなっている。学校の状況として、忙しいのか、もしくは、考え方方が変わってきてているのか、それに合わせて、こちらも変わっていかないといけないと感じている。</p> <p>取組を新たに始めるにあたっては、委員の皆様が実施している食育の取組の中で、足りていない部分があるとすれば、協力できることがないだろうか、と考えている。</p> <p>取組の実施にあたっては、食育を目指して開始したものではなく、自分たちの実施している取組がどういう食育につながっていくのかを当てはめていただけだったので、改めて、食育を推進していくために不足していることがもしあれば、教えていただき、食育に貢献できる取組としていきたい。</p> <p>(金子部会長)</p> <p>取組の範囲が広がっていることがうかがえる。各委員からさらにこんな取組をという御意見があれば、後ほどお聞きしたい。</p> <p>(菅委員)</p> <p>旬の野菜を使用した料理講座や、一般財団法人かけはしにて、季節に応じたテーマを設け「作って食べよう」という食育講座を実施した。令和7年度も引き続き実</p>
--	--

施したい。

小学校の栄養教諭向けに、給食で使える「豆料理」講座を実施できたが、一方で、実施できなかった取組もあった。今後、ローリングストックを応用した料理教室はぜひ実施したいと思っている。また、令和6年度から少し実施していたが、新たな取組として、港北区国際交流ラウンジにて、海外の方向けに、季節に応じた食育講座を開催する予定。

(長島委員)

年齢、地域などに問わらず、切れ目のない食育活動を実施している。その中で、いくつか変化があったのでお伝えしたい。

まず、学校の居場所づくり事業は10年間継続をしているが、今年度新たに、不登校の子どもたちに対する居場所づくりを食で進める活動を始め、6月の開港記念日に2人が参加、7月には4人が参加してくれた。

また、食と農の体験では、高校生自らが作った作物を授業で使うことで、食に興味を持ち、学び、作物のことを知るということにつながっている。食に興味を持つきっかけづくりとして、大切だと考えている。

みなと総合高校での朝食事業に関しては、昨年度は1週間の期間、今年度は毎月1回、関係各所と協力し朝食の提供を開始したところであるが、この取組を隣りの中学校にも広めていくことを検討している。また、定時制高校など夜に学校に通う生徒は、朝食の時間帯に違いがあることから、どういう時間にどのようなものを食べたらよいか、正しい知識や理解を伝えられたらよいと感じている。

地域での活動では、医療や歯科の方と協力して、将来を見据えて何が必要かを伝えながら、食の必要性を伝えていきたい。

今後開催予定の「ネイチャーキッズフェスティバル」では、異年齢の子どもたちが協力して食に关心を持ち、SDGsの観点から、食や自分を大切にする活動の協力ができたらよいと考えている。

(望月委員)

毎年継続している取組として、小学校を対象に「サッカー食育キャラバン」があり、昨年度は208校で実施した。「身体を動かして給食をしっかり食べよう」ということを伝えている。資源循環局とコラボして作成したプリントを使って、「朝食をしっかり食べよう」ということも伝えている。

また、中学校の食育教室を実施しており、昨年度は34校実施、今年度は35校の申込みがあった。

一番気になっているのは、小学生では朝食をしっかり食べているのに、中学生になるとほとんどの生徒で必要な量が足りていないこと。

必要量を満たす「ご飯、味噌汁、魚、サラダ、バナナ、ヨーグルト」の食事の写真を見せると、それを食べている生徒は、100人中3、4人くらい。その半分の量を食べている生徒が残りの半分くらい。他の生徒はもっと少ないという現状がある。

塾に行って帰りが遅いなど様々な理由があると思うが、前日の夜寝る時間が遅いことで、朝ギリギリまで寝ていて食べる時間がないという生徒が多い。朝食をしっかり食べないと午前中から活発に授業を受けることができなかつたり、体調不良で保健室へ行く生徒もいる現状があるので、スポーツの観点から朝食をしっかり食べてくることを伝えている。

来年度は、もしかしたら資源循環局とのプリントに、スポンサーの協力を得られるかもしれない、さらに子どもたちに食に興味を持つてもらえるようになるとよいと思っている。

(守屋委員)

継続している取組として、小学5年生を対象に稻作栽培支援事業を実施し、農業体験を通じて子どもたちへ食の大切さを伝えている。昨年度も、29校から依頼があり、計51回で約2,000人の生徒を対象に実施した。

11月の地産地消月間では、「学校給食食材一斉供給」としてキャベツを提供した。11月の時期に合わせて収穫ができるよう、農家に協力してもらって実施している。

市内13店舗のハマっ子直売所も引き続き実施する。毎週木曜日は市庁舎でも出張販売を実施しており、今年度は、回数を増やして実施予定。

「クッキングサロンハマっ子」の料理教室では、地産地消の野菜を使ってもらっている。昨年度は、84回で約1,500人が受講している。

「フードバンクかながわ」への協力も強化している。年1回開催され約1,000人が集まる女性部大会で呼び掛けを行った。昨年度の女性部大会では、お米1人一合運動と称し、参加者にお米のフードドライブを呼び掛け、約187kg集まり、「フードバンクかながわ」へ寄付した。今年度も引き続き実施していきたい。

(吉泉委員)

当財団の中核の事業として、まず、1日19万食の小学校給食食材の一括調達業務を市から委託を受けて実施している。また、地域への食育事業も市からの委託を受けて実施している。

昨年度も少しご紹介したが、財団の基本的な運営ポリシーとして、「五方よし」を共通認識として進めている。「五方」とは、「子どもたちと保護者」、「調理員や教員を含めた学校関係者」、「地域の皆様」、「納入事業者、給食を調理する工場の皆様」、「財団」。この「五方」の皆が良い思いをする調和点を見出すための合言葉として進めている。

中学校給食がいよいよ来年の4月からスタートする。1日8万食を提供することになるので、それに見合った食材を一括で調達し、市内外の6つの工場に納品することが新規事業として開始するため、その準備を進めている。小学校給食と中学校給食では、事業として形態が全く異なるものであり、中学校給食は6か所で調理していく。小学校給食は約350校それぞれの小学校に食材を調達、配達しているが、これに比べて1か所あたりの調達規模が遥かに大きくなるので、安心・安全はもちろんのこと、安定供給がとても大事になってくる。そのため、昨年から1年かけて

	<p>調達の調整を進めてきており、引き続き、準備を進めていく。</p> <p>今後の給食事業全般における課題感として、中学校給食の開始のこの機会を捉えて、子どもや保護者に向けた食育をしっかりと進め、個々に大切さを理解してもらい、給食以外での実践に結び付けてもらうために、どのような取組ができるのかということがポイントになってくると考えている。</p> <p>中学校では、給食に割ける時間が非常に短く、また、小学校と異なり、各学校で調理をしないため、学校への栄養士の配置も無く、食育を専門で教えられる人材がないので、他の教科の先生が担当することになる。そのため、どのように効果があるものにしていけるかが非常に大きな課題となっている。</p> <p>(米山委員)</p> <p>横浜市委託事業の活動において、「1日3食、栄養バランスよく食べる」、「野菜たっぷり食べる（1日350g）」、「口から食べる」等について、全世代を対象に啓発をしている。</p> <p>今年度も継続して実施し、さらに拡充として、働き・子育て世代、実りの世代を中心に「自然災害等の『もしも』の健康リスクに備える」を行動目標に据えて、食料品等の備蓄に努める市民を増やす啓発活動をしていく。この活動については、各区で研修やレシピ集の作成をし、積極的に活動が行われている。</p> <p>また、活動を通じ、「食育について」や「家族と食事をすることは楽しい」ことを全世代を対象に伝えている。集会形式では、ヘルスマイトが講師になって教室形式で講話や試食、調理実習をしている。個人活動では、個人や少人数で、隣の人、家族、友人などに、食の知識、知恵をお伝えする活動をしている。今年度も引き続き実施していきたい。</p> <p>また、「私たちの健康は私たちの手で」というヘルスマイトの考え方を、啓発活動等を通して市民の皆様に伝え、仲間を増やす礎とするための取組も進めている。各区栄養士によるヘルスマイト育成教育に各区ヘルスマイトが参加し、活動の説明、質問に答える活動もしている。不安なく活動が始められるよう、各区でも工夫していきたい。</p> <p>(池本委員)</p> <p>「ラシク045」に在籍する会員が代表を務める団体（つどいのひろば、地域子育て支援拠点、障害者就労支援施設、子育て支援者会場）などで親子の現状を聞き、生活環境、食育アドバイスなどを実施している。今回の部会にあたり、「ラシク045」の会員が、それぞれの活動の中で把握した乳幼児の保護者の実態や、活動を通じて感じたことなどを聞き、まとめてきたので、そういった視点でお伝えしたい。</p> <p>乳幼児の保護者の現状として、離乳食は作らず、ベビーフードやフリーズドライを利用している人も多い。また、相談したい時はAIに聞いているという人もいるが、改めて対面で伝えることの大切さを感じている。</p> <p>中学校給食は、栄養もバランスよく考えられていて、とてもおいしくなったという保護者の声が多い。子どもへの食育のみならず保護者に給食の取組について知つ</p>
--	---

ていただき、保護者から子どもに向けて給食のありがたさを伝えることが大切だと思う。

保護者はSNSを活用している。パマトコもよく見ているので、活用するとよいと思う。

各所に出向き、食育の知識をわかりやすく丁寧に教えてくれている、ヘルスメイトさんの活動がとても良いという意見が多くあった。

各団体の皆様の活動内容を聞かせていただき、あらゆる対象に向か、対象者に寄り添った多様な食育活動をされていると感じた。ぜひ、誰も取り残さない健康支援を進めて今後も活動を続けていただきたい。

(今井崎委員)

6月、11月は「歯と口の健康週間」がある。6月はズーラシアでイベントを開催した。小学4～6年生とその保護者を対象としているが、必ず保護者に参加してもらうことにしており、ねらいとしては、仕上げ磨きがなくなっていく時期だが、永久歯が生えてくる時期に親子でお話を聞いてもらい、改めて歯や口についての知識をブラッシュアップしていただき、この先しっかりとおいしくご飯を食べられるような歯や口に育ってほしいという願いもあって実施している。今回は2回目の開催であったため、多くの応募があり盛況に終わった。横浜市歯科医師会ホームページ「歯と口の健康週間」には、当日の様子やコラムを掲載している。

乳幼児健診、保育園の検診に参画している。保護者の情報源がSNSなど多様化しており、情報が錯綜している状況がある中で、歯科医師会として、口や歯の困りごとに関する、しっかりと正しい知識を得てもらうことを目的として「教えて！めばえちゃん」というコンテンツを作成している。「授乳・離乳について」、「離乳食について」、「赤ちゃんのお食事ツールのお話」をアップデートした。ぜひご覧いただきたい。

食べることに、歯と口の健康は付き物なので、切り口は違うかもしれないが、妊娠、乳幼児の保護者などに、しっかりと正しい知識を持っていただくことが大切。

口腔機能は、赤ちゃんの時から歯が生えてくるまで、身体の発育とともに高まっていくが、これが低い子どもがとても増えている。子どもの好きな食べ物はやわらかいものが多く、そればかり食べていると、歯の自浄作用が効かず、噛む力も育たない。口腔機能が発達しないまま年をとっていくと、全くご飯が食べられない中高年、高齢者になっていくことは分かっているので、保険点数を使って病名をつけてアプローチをしようという動きがここ数年で出てきている。この啓発はとても大事だと思うので、部会委員の皆様と一緒に何か取組ができたらよいと思っている。

オーラルフレイルのチェックが簡単にできる項目「OF-5」を活用して、改めて市民の皆様に向けて啓発を行い、「生涯、自分の歯でおいしくご飯が食べられること」を目指して、歯科として支えていきたい。

(金子部会長)

各委員の皆様から御説明いただいた取組について、質問やコメントがあれば、ぜ

ひ御発言いただき、情報交換をしたい。

(長島委員)

はまふうどコンシェルジュの取組で、昨年度は実施ができなかった「防災の活動」について提案したい。

私たちが実施している「居場所づくり」の取組では予算がないため、フードバンクから食材をいただいたり、市立高校の防災備蓄品の期限が迫ってきたりすると、そういった食材がまわってくることがある。今回初めて、ホワイトシチューとクラッカーをいただいた。

基本的に、限りなく手作りで実施し、その味を子どもたちに感じてほしいという思いで取組を実施しているが、防災の観点からすると、地元にいる時には、地域でその活動に参加することができるが、高校生以上になると地元を離れていく子も多く、そういった活動に参加できなくなっていく。どこにいても防災意識を持って、協力し活動できる子ども達になってほしいと思っているので、一緒に活動ができるとよいと思う。

(菅委員)

よろしくお願ひします。

(金子部会長)

JA 横浜や神奈川県栄養士会ともぜひ連携をしていただけるとよいと思う。

(君塚委員)

朝食欠食の調査データでは、小・中学生の時には朝食を食べている率が高いが、社会人になると食べなくなる傾向があったと思う。各団体でいろいろな活動をしているのにかかわらず、先ほどの望月委員の報告によると、小・中学生でも朝食を食べていない人が多いという状況があるということに驚いている。横浜市の調査と実態との乖離はないのか。それぞれ一部を切り取った調査結果かもしれないが。実際、子どもの頃から食べていないというのが事実であれば、当然、成長しても朝食を食べない人が多くなると思う。その実態に対して、食育の取組としてどのように関わっていくべきかが課題だと考える。

また、今井崎委員の報告では、歯の生え方がすでに変わってきているということだが、人間の変化は、そんなに早く変わってしまうのか。遺伝ではなく、食べ方で変化してしまう、後天的なものなのか。しっかり噛むことすれば、大丈夫なのか。

(今井崎委員)

体幹の筋肉と一緒に、頸も筋肉と骨の複合体なので、鍛えれば成長する。離乳食の段階から噛む練習をしないで育った子は、必要な歯が生え揃わなかったり、口の周りの筋肉が発達していないため、口を閉じることができない子が多い。口が開いていると、歯並びにも影響する。授乳の姿勢も、離乳食の取り込み方、舌の使い方にも影響するので、妊婦の方に対してもしっかり啓発をしていき、お腹の中にいるときから、次世代に向けて気を付けるべきことを知ってほしい。

離乳食のステップアップについて、歯の生え方は個人差が大きいためとても難し

く、個々に対応した離乳食の形態でないと丸のみの癖や、噛めない子どもが増えているのが問題と考えている。

(君塚委員)

手遅れになる時期はあるか。

(今井崎委員)

小学校ですでに手遅れになっている子どもも増えてきている。乳幼児健診などの場を活用して、しっかり伝えていき、横浜市民の皆様の歯を守っていきたい。

(池本委員)

咀嚼を増やしたいということで、低月齢のお子さんに固形食離乳食を試すなど、極端なことをやっている方もいて、どのように指導したらよいか迷うこともある。

(金子部会長)

朝食欠食の状況については、調査対象や、聞き方によって異なってくるのではないかと思う。

(望月委員)

マリノスの取組では、例えば「ご飯、味噌汁、魚、サラダ、バナナ、ヨーグルト」の食事の写真を見せて、このくらいの食事を食べているかどうか聞いている。

子どもは学校へ行ったら昼まで食べられないので、家庭でしっかり食べて登校することが必要。成長期の子どもにとって、昼ご飯までに必要なご飯の量はどれくらいかを知ってもらい、自分の食事と比較してもらうことをやっている。

また、歯に関してだが、スポーツする人にとって歯はとても大事なので、しっかり噛んで食べることが必要。ただ、よく噛める食材は何かというと、何が適しているか難しいと感じる。

(今井崎委員)

筍などは、噛み応えがあり、よく噛むために適した食材。単に固いものを食べればよいということでもない。するめや昆布などを何度もしっかりと噛むということがよい。

(岩本委員)

12年の計画期間、毎年、このような情報交換、連携等を続けていくだけではもつたない。同じことの繰り返しにならないよう、課題を明確にして取組を進めるなど、工夫すべきだと考える。各団体がこれだけ様々な食育の取組を繰り返しやっていっている。評価の方法が、前計画を評価した時のような、調査による評価のみだと実態を反映しきれないのではないか、違った評価方法があるとよいと思う。

若い方はSNS利用が増えているので、SNSを活用するなど、世代に応じた発信をすることで、計画の目標達成につながるのではないか。

(菅委員)

パマトコに食育イベントをぜひ掲載してほしい。子育て支援アプリ、広報よこはまも、乳幼児の保護者世代はよく見ている。アプリ等を活用した情報発信は有効だと思う。ホームページに簡単に辿り着かない人も、パマトコで流れてくると、つな

	<p>がると思う。</p> <p>(守屋委員)</p> <p>子ども食堂に関連して、実際、食べられないお子さんはどのくらいいるのか。</p> <p>(長島委員)</p> <p>多くいる。ひとり親家庭、ネグレクトなど状況は様々である。</p> <p>(守屋委員)</p> <p>食材の調達はどのようにしているのか。</p> <p>(長島委員)</p> <p>活動すると、つながりも広がり連携ができる、食材についても情報が入ってくる。</p> <p>(守屋委員)</p> <p>子ども食堂は市内にどれくらいあるのか。</p> <p>(長島委員)</p> <p>実態としてはたくさんあるが、一覧でとりまとめた資料はないと思う。取り組んでいる団体が一覧で分かれば、相互の連携も取りやすくなると思う。</p> <p>「フードバンクかながわ」に登録しているので、そこから食材をいただくこともある。</p> <p>(米山委員)</p> <p>子どもの朝食欠食の状況だが、活動の中で地域差が大きいと感じているので、地域差を埋める活動をしていけるとよいと思っている。</p> <p>朝食欠食の理由として、保護者が忙しく食事の準備ができない状況も多いので、子どもでもできる朝食レシピの提案などを配布資料に盛り込むなど、各区で工夫をしている。今後も、ヘルスマイトの活動が欠食率を下げる一助になればよいと考えている。</p> <p>(金子部会長)</p> <p>それでは、議事はここで終了とする。</p>
5 報 告	<p>【報告】ハマの元気ごはん提供店登録制度の取組について 資料5</p> <p>(事務局)</p> <p>資料説明 (資料5)</p> <p>(金子部会長)</p> <p>事務局からの説明について、御質問、御意見等があれば、御発言いただきたい。</p> <p>(岩本委員)</p> <p>取組を開始したのはいいが、販売状況の事後調査はしているのか。委員としては、確認し続けたいと思っている。</p> <p>(事務局)</p> <p>お弁当に関しては、販売されていることは確認している。しかし、実態として、時間帯によっては販売前、もしくは売り切れということもあることを把握している。季節や他の売り出し商品などの関係で、販売数についても調整をすることもある</p>

	<p>ると聞いている。</p> <p>(金子部会長)</p> <p>私も店舗に行った際には、販売状況を確認している。売り場に出ていない時は、店舗の担当者に聞いてみるのもよいと思う。</p> <p>(菅委員)</p> <p>はまふうどコンシェルジュの中には、飲食店をやっている方も多いので、はまふうどコンシェルジュ向けにメールを定期的に送付してはどうか。はまふうどコンシェルジュの飲食店が全て「地産地消サポート店」ということではないので、積極的に連絡するとよいと思う。</p> <p>また、公式 Instagram についても、フォロワー数を増やすことが必要だと思うので、ハッシュタグをなるべく多くの人が見ていただけるように工夫するとよいと思う。フォロワー数が増えれば、飲食店側も、登録のメリットを感じてもらえると思う。</p> <p>(事務局)</p> <p>はまふうどコンシェルジュの方をはじめ、多くの方と連携して登録店を増やしていきたいと考えているので、委員の皆様もぜひ御協力をお願いしたい。</p> <p>公式 Instagram についても、フォロワー数を増やし、市民の皆様に健康情報を発信できるよう努力していきたい。</p> <p>(金子部会長)</p> <p>本日の議事、報告は以上となる。</p>
6 その他	<p>【その他】今後のスケジュールについて</p> <p>(事務局)</p> <p>当検討部会は、今年度から年1回の開催へと変更になっており、次回の開催は、来年度の7月頃を予定している。次回の開催までの期間中も、食育の推進に関して委員の皆様で情報共有すべき案件等があれば、ぜひ事務局に御連絡等いただきたい。</p>
閉 会	本日はこれにて閉会とする。
資 料	<p>資料 1 健康横浜21推進会議 食育推進検討部会 委員名簿</p> <p>資料 2 食育推進検討部会設置要綱</p> <p>資料 3 横浜市食育推進計画（第3期）の目標に関連する取組横浜市</p> <p>資料 4 横浜市食育推進計画（第3期）の目標に関連する取組</p> <p>資料 5 ハマの元気ごはん提供店登録制度の取組</p>